

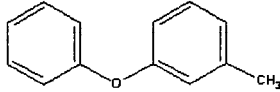
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
m-フェノキシトルエン [官報公示整理番号:3-752]	平成6年12月28日	高濃縮性ではないと判断される物質

物質情報

構造式



CAS番号	3586-14-9
点検対象物質名称	m-フェノキシトルエン

官報公示整理番号	3-752	官報公示名称	m-フェノキシトルエン
----------	-------	--------	-------------

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
揮発	4週間	100mg/L	30mg/L

間接測定	BOD
	2%

直接測定	GC
	1%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
5.09mg/L	(5.09)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
標準	8週間	コイ	4

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	50µg/L	1020 ~ 1620
第2濃度区	5µg/L	520 ~ 2130

総合検索システムへ
3586-14-9

前画面に戻る

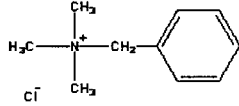
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
ベンジルトリメチルアンモニウム＝クロリド	昭和59年12月28日	濃縮性がない又は低いと判断される化学物質

物質情報

構造式



CAS番号	56-93-9
点検対象物質名称	トリメチルベンジルアンモニウム＝クロリド
官報公示整理番号	3-2694
官報公示名称	ポリ(1~3)アルキル(又はアルケニル, C=1~20)ポリ(3~1)ベンジルアンモニウム

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	4週間	100ppm	30ppm

間接測定	BOD	直接測定	TOC	HPLC
	1%		2%	0%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
>1000ppm	(1000)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
標準	6週間	コイ	4.5

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	2ppm	<0.2
第2濃度区	0.2ppm	<1.5

総合検索システムへ
56-93-9

前画面に戻る

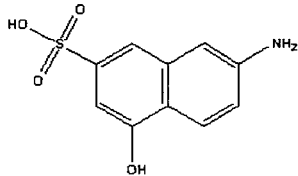
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
7-アミノ-4-ヒドロキシ-2-ナフタレンスルホン酸	昭和54年12月20日	濃縮性がないまたは低いと判断される物質

物質情報

構造式



CAS番号	87-02-5
点検対象物質名称	7-アミノ-4-ヒドロキシ-2-ナフタレンスルホン酸

官報公示整理番号	官報公示名称
4-514	2-アミノ-5-ナフトール 7-スルホン酸

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	2週間	100ppm	30ppm

間接測定	BOD	直接測定	TOC	UV-VIS
	6.3%		8.4%	0%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
480ppm	(480)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種
標準	6週間	コイ

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	2ppm	<0.2
第2濃度区	0.2ppm	<2.4

総合検索システムへ
87-02-5

前画面に戻る

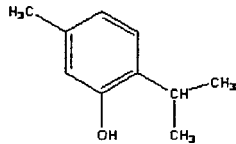
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
チモール [官報公示整理番号: 3-521]	平成8年12月27日	高濃縮性ではないと判断される物質

物質情報

構造式



CAS番号	89-83-8
点検対象物質名称	チモール

官報公示整理番号	官報公示名称
3-521	ジアルキル(C=1~5)フェノール
4-57	ポリ(1~3)アルキル(C=1~3)ポリ(1~3)ヒドロキシポリ(1~5)フェニル

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	4週間	100mg/L	30mg/L

間接測定	BOD	直接測定	TOC	HPLC
	0%		1%	1%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
9.35mg/L	(9.35)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
標準	6週間	コイ	3.8

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	10µg/L	7.8 ~ 19
第2濃度区	1µg/L	<48

総合検索システムへ
89-83-8

前画面に戻る

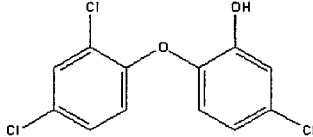
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
5-クロロ-2-(2,4-ジクロロフェノキシ)フェノール	昭和59年12月28日	濃縮性がない又は低いと判断される化学物質

物質情報

構造式



CAS番号	3380-34-5
点検対象物質名称	2,4,4'-トリクロロ-2'-ヒドロキシジフェニルエーテル

官報公示整理番号	官報公示名称
9-922	2,4,4'-トリクロロ-2'-ヒドロキシジフェニルエーテル
9-381	5-クロロ-2-(2',4'-ジクロロフェノキシ)フェノール

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	28日間	100ppm	30ppm

間接測定	BOD
	0%

直接測定	HPLC
	1%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
2.04ppm	(2.04)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
標準	8週間	コイ	4.5

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	30ppb	(2.7) ~ 44
第2濃度区	3.0ppb	(15) ~ 90

総合検索システムへ
3380-34-5

前画面に戻る

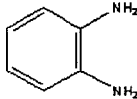
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
o-フェニレンジアミン [官報公示整理番号:3-185]	平成14年3月26日	難分解性と判断される物質
1, 2-フェニレンジアミン [官報公示整理番号:3-185] [CAS番号:95-54-5]	平成15年1月17日	難分解性ではあるが高濃縮性ではないと判断される物質

物質情報

構造式



CAS番号	95-54-5
点検対象物質名称	o-フェニレンジアミン
官報公示整理番号	官報公示名称
3-185	フェニレンジアミン
政令番号	化学物質排出把握管理促進法名称
1-262	オルト-フェニレンジアミン

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	4週間	100mg/L	30mg/L

間接測定	BOD	直接測定	TOC	HPLC
	0%		0%	4%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	分配係数試験

n-オクタノール/水分配係数

最小	最大	平均	試験方法
0.14	0.17	0.15	フラスコ振とう法

総合検索システムへ
95-54-5

前画面に戻る

既存化学物質安全性点検データ

データの説明 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
ニクロム酸ナトリウム [官報公示整理番号:1-283]	平成14年3月26日	難分解性ではあるが高濃縮性ではないと判断される物質

物質情報

CAS番号	10588-01-9
点検対象物質名称	ニクロム酸ナトリウム

官報公示整理番号	官報公示名称
1-283	重クロム酸ナトリウム

政令番号	化学物質排出把握管理促進法名称
1-69	六価クロム化合物

濃縮性

CAS番号	7789-12-0
被験物質名称	ニクロム酸ナトリウム二水和物

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

LC50値(96hr)		魚種
249mg/L	(249)mg/L	ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)	
			開始前	終了後
標準	28日間	コイ	1.5	1.7

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	1mg/L	<3.6
第2濃度区	0.1mg/L	<36

備考

[定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 <3.6倍 第2濃度区 <36倍

総合検索システムへ
10588-01-9

前画面に戻る

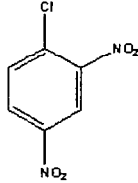
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン [官報公示整理番号:3-454]	平成6年12月28日	高濃縮性ではないと判断される物質

物質情報

構造式



CAS番号	97-00-7
点検対象物質名称	1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン
官報公示整理番号	官報公示名称
3-454	モノクロロジニトロベンゼン
政令番号	化学物質排出把握管理促進法名称
1-83	1-クロロ-2,4-ジニトロベンゼン

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	2週間	100ppm	30ppm

間接測定	BOD	直接測定	UV-VIS	GC
	0%		5%	10%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
0.371mg/L	(0.371)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
標準	6週間	コイ	4.2

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	10μg/L	<4.2
第2濃度区	1μg/L	<44

総合検索システムへ
97-00-7

前画面に戻る

既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
2, 2'-ジクロロ-4, 4'-メチレンジアニリン	昭和58年12月28日	濃縮性がない又は低いと判断される化学物質

物質情報

CAS番号	101-14-4
点検対象物質名称	3, 3'-ジクロロ-4, 4'-ジアミノジフェニルメタン

官報公示整理番号	官報公示名称
4-95	3, 3'-ジクロロ-4, 4'-ジアミノジフェニルメタン
4-96	ポリ(ジ~テトラ)クロロ-4, 4'-ジアミノジフェニルメタン
4-275	o-クロロアニリン-ホルムアルデヒド縮合物

政令番号	化学物質排出把握管理促進法名称
1-120	3, 3'-ジクロロ-4, 4'-ジアミノジフェニルメタン

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	4週間	100ppm	30ppm

間接測定	BOD 0%	直接測定	HPLC 1%
------	-----------	------	------------

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
1.0ppm	(1)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
標準	8週間	コイ	4.3

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	50ppb	130 ~ 398
第2濃度区	5ppb	114 ~ 232

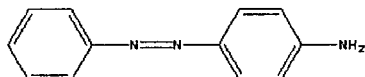
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
4-(フェニルアゾ)アニリン(別名p-(フェニルアゾ)アニリン) [官報公示整理番号:3-363]	平成14年3月26日	難分解性と判断される物質
4-(フェニルアゾ)アニリン [官報公示整理番号:3-363] [CAS番号:60-09-3]	平成14年11月8日	難分解性ではあるが高濃縮性ではないと判断される物質

物質情報

構造式



CAS番号	60-09-3
点検対象物質名称	4-(フェニルアゾ)アニリン
官報公示整理番号	官報公示名称
3-363	4-アミノアゾベンゼン
政令番号	化学物質排出把握管理促進法名称
2-59	パラ-(フェニルアゾ)アニリン

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	4週間	100mg/L	30mg/L

間接測定	BOD	直接測定	HPLC
	0%		0%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

LC50値(96hr)	魚種
0.23mg/L	(0.23)mg/L ヒメダカ

試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)	
			開始前	終了後
標準	28日間	コイ	2.46	2.22

	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	6µg/L	29.6 ~ 42.4
第2濃度区	0.6µg/L	<30.7 ~ <31.7

備考

[定常状態における濃縮倍率]
第1濃度区 37.3倍
第2濃度区 <31.6倍

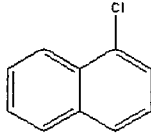
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
1-クロロナフタレン	昭和54年12月20日	濃縮性が無いまたは低いと判断される物質

物質情報

構造式



CAS番号	90-13-1
点検対象物質名称	α-クロロナフタレン
官報公示整理番号	官報公示名称
4-316	モノクロロナフタリン
政令番号	化学物質排出把握管理促進法名称
2-20	1-クロロナフタレン

分解性

判定	難分解性		
試験方法	標準法		
試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
揮散	2週間	100ppm	30ppm
間接測定	BOD	直接測定	GC
	0%		1.0%

濃縮性

判定	低濃縮性	
試験方法	濃縮度試験	
48TLm値(48hr)		魚種
1.5ppm	(1.5)mg/L	ヒメダカ
試験装置	試験期間	魚種
揮発	8週間	コイ
	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	0.050ppm	142 ~ 442
第2濃度区	0.0050ppm	142 ~ 403

総合検索システムへ
90-13-1

[前画面に戻る](#)

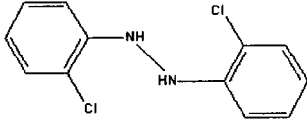
既存化学物質安全性点検データ

データの説明 分解性 濃縮性

経済産業公報公表名称	経済産業公報公表年月日	経済産業公報公表内容
2, 2'-ジクロロヒドラゾベンゼン	昭和62年12月28日	蓄積性がない又は低いと判断される化学物質

物質情報

構造式



CAS番号	782-74-1
点検対象物質名称	2, 2'-ジクロロヒドラゾベンゼン
官報公示整理番号	3-2756
官報公示名称	2, 2'-ジクロロヒドラゾベンゼン

分解性

判定	難分解性
試験方法	標準法

試験装置	試験期間	試験物質濃度	活性汚泥濃度
標準	4週間	100ppm	30ppm

間接測定	BOD	直接測定	HPLC
	0%		8%

濃縮性

判定	低濃縮性
試験方法	濃縮度試験

48TLm値(48hr)	魚種
62.1mg/L	(62.1)mg/L ヒメダカ

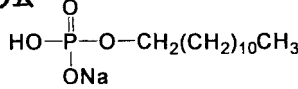
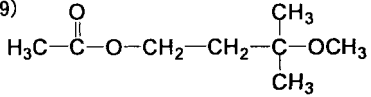
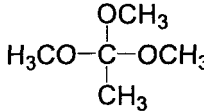
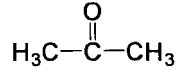
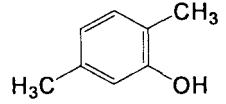
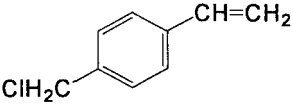
試験装置	試験期間	魚種	脂質含量(%)
揮発	8週間	コイ	4.9

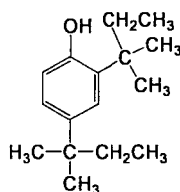
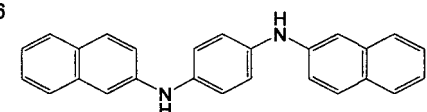
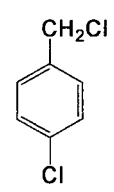
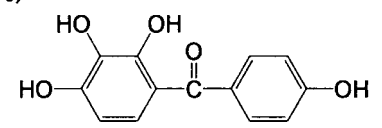
	濃度設定	濃縮倍率
第1濃度区	50µg/L	2650 ~ 5580
第2濃度区	5µg/L	3140 ~ 5870

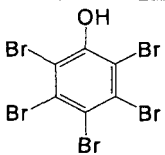

総合検索システムへ
782-74-1

前画面に戻る

〈参考〉既存化学物質(平成17年11月)分解性QSAR予測結果

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	①BIOWIN5 (Ver.4.02) 予測値0.5以上が 良分解	②BIOWIN6 (Ver.4.02) 予測値0.5以上が 良分解	③CERIエキスパート予測(インター ネット公開版)	④CATABOL
1727	ドデシルリン酸ナトリウム (50957-96-5) 2-2017 	良分解性 BOD:61%(61,60,61) LC-MS:100%(100,100,100)	難分解性 (予測値0.3984)	難分解性 (予測値0.2586)	難分解性	良分解性 (BOD予測値 90.1±1.3%、 既存物質残留2.0%)
1743	酢酸3-メチル-3-メトキシブチル (103429-90-9) 2-3291 	良分解性 BOD:90%(91,91,88) TOC:97%(96,97,97) G C:100%(100,100,100)	良分解性 (予測値0.7488)	良分解性 (予測値0.8285)	予測困難	難分解性 (BOD予測値 30.6±3.1%、 既存物質残留11.7%)
1745	オルト酢酸トリメチル (1445-45-0) 2-2544 	良分解性 被験物質は分解度試験条件下で速やかに加水分解し、メタノール(2-0201,K-1082, H5.2.12(180)良分解)及び酢酸メチル(2-0725,K-1105,H5.7.26(185)良分解)を生成した。	難分解性 (予測値0.4284)	難分解性 (予測値0.3127)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 8.4±5.3%、 既存物質残留77.6%)
1746	アセトン (67-64-1) 2-0542 	良分解性 BOD:96%(95,98,95) TOC:99%(99,100,99) G C:100%(100,100,100)	良分解性 (予測値0.6579)	良分解性 (予測値0.8483)	良分解性	良分解性 (BOD予測値 100.0±0.0%、 既存物質残留0.0%)
1227D	2,5-キシレノール (95-87-4) 3-0521 	難分解性 BOD:0%(0,-1,0) TOC:2%(2,3,1) HPLC:2%(3,2,1)	良分解性 (予測値0.5205)	良分解性 (予測値0.6135)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 14.9±8.1%、 既存物質残留77.6%)
1708	4-クロロメチルstyレン (1592-20-7) 3-0046 	難分解性 BOD:0%(-3,-1,-4) HPLC:100%(100,100,100) 被験物質は変化して、p-ビニルベンジルアルコール(新規物質、log Kow = 1.98)の生成残留を確認した。さらに変化してp-ビニル安息香酸(新規物質、log Kow = 2.78)を3~5%生成し、残留した。	難分解性 (予測値0.2549)	難分解性 (予測値0.1112)	難分解性	良分解性 (BOD予測値 68.6±22.1%、 既存物質残留4.3%)

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	①BIOWIN5 (Ver.4.02) 予測値0.5以上が 良分解	②BIOWIN6 (Ver.4.02) 予測値0.5以上が 良分解	③CERIエキスパート予測(インター ネット公開版)	④CATABOL
1736	2-プロペン-1-スルホン酸ナトリウム (2495-39-8) 2-1590 <chem>H2C=CH-CH2-SO3Na</chem>	難分解性 BOD:33%(67,22,10) TOC:31%(63,29,2) HPLC:36%(69,29,9) 逆転条件(開放系) TOC:94%(86,95,100) HPLC:100%(100,100,100) 判定結果 保留、逆転法指示 (H17年1月14日) BOD:42%(4,41,82) TOC:10%(8,17,4) HPLC:3%(6.5-1)	難分解性 (予測値0.4168)	難分解性 (予測値0.3810)	難分解性	良分解性 (BOD予測値 95.4±9.2%、 既存物質残留0.0%)
1759	2,4-ジ-tert-ペンチルフェノール (120-95-6) 3-0526 	難分解性 BOD:0%(-7,-6,-6) HPLC:3%(4,2,4)	難分解性 (予測値0.3403)	難分解性 (予測値0.1654)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 1.3±0.4%、 既存物質残留77.6%)
1761	N,N'-ジ-2-ナフチル-p-フェニレンジアミン (93-46-9) 4-0346 	難分解性 BOD:0%(-2,-1,-1) HPLC:0%(0,0,1)	難分解性 (予測値-0.5277)	難分解性 (予測値0.0003)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 0.3±6.8%、 既存物質残留99.2%)
1744	4-クロロベンジルクロリド (104-83-6) 3-0091 	難分解性 BOD:0%(-10,-9,-9) HPLC:100%(100,100,100) 被験物質は全て変化し、p-クロロベンジルアルコール(3-1050,log Kow = 1.72)及びp-クロロ安息香酸(3-1424,log Kow =2.52)を生成し、残留した。	難分解性 (予測値0.2175)	難分解性 (予測値0.0675)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 12.9±18.2%、 既存物質残留4.3%)
1742	2,3,4,4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン (31127-54-5) 4-1531 	難分解性 BOD:5%(4,7,5) TOC:36%(41,35,34) HPLC:100%(100,100,100) 被験物質は全て変化し、水溶性変化物及び高分子化した変化物を生成し、残留した。	難分解性 (予測値0.4036)	難分解性 (予測値0.2546)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 0.1±23.5%、 既存物質残留99.9%)

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	①BIOWIN5 (Ver.4.02) 予測値0.5以上が 良分解	②BIOWIN6 (Ver.4.02) 予測値0.5以上が 良分解	③CERIエキスパート予測(インター ネット公開版)	④CATABOL
1748	ペンタブロモフェノール (608-71-9) 3-2849 	難分解性 BOD:0%(-7,-2,-13) HPLC:1%(3,0,0)	難分解性 (予測値0.1567)	難分解性 (予測値0.0271)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 0.3±1.2%、 既存物質残留96.5%)
1647	1,5-シクロオクタジエン (111-78-4) 3-2232 	難分解性 BOD:0%(-7,-9,-7) G C:3%(3,4,1)	難分解性 (予測値0.4940)	良分解性 (予測値0.6136)	難分解性	難分解性 (BOD予測値 4.4±1.9%、 既存物質残留64.9%)